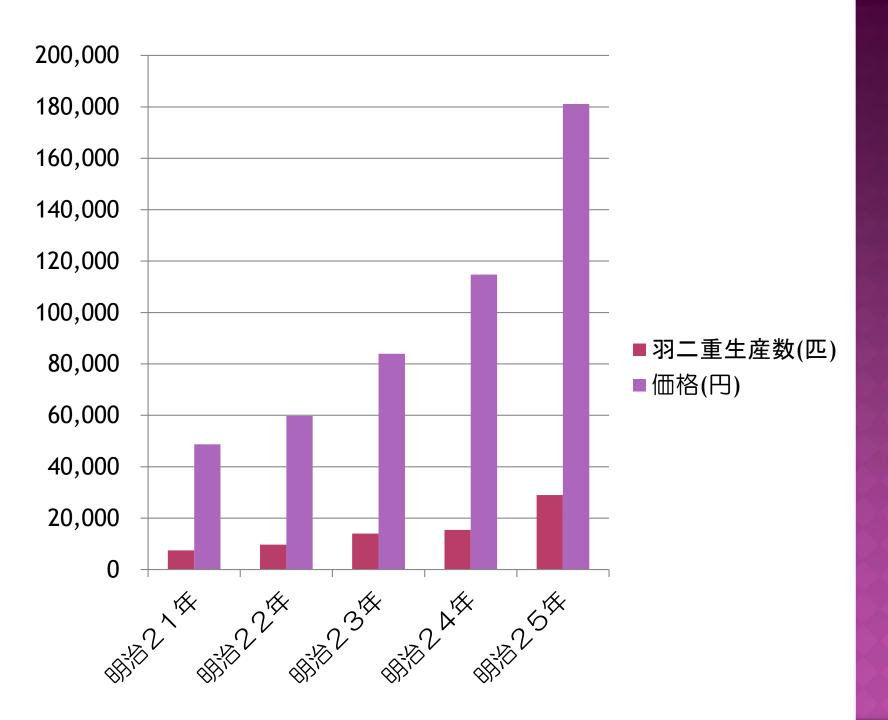
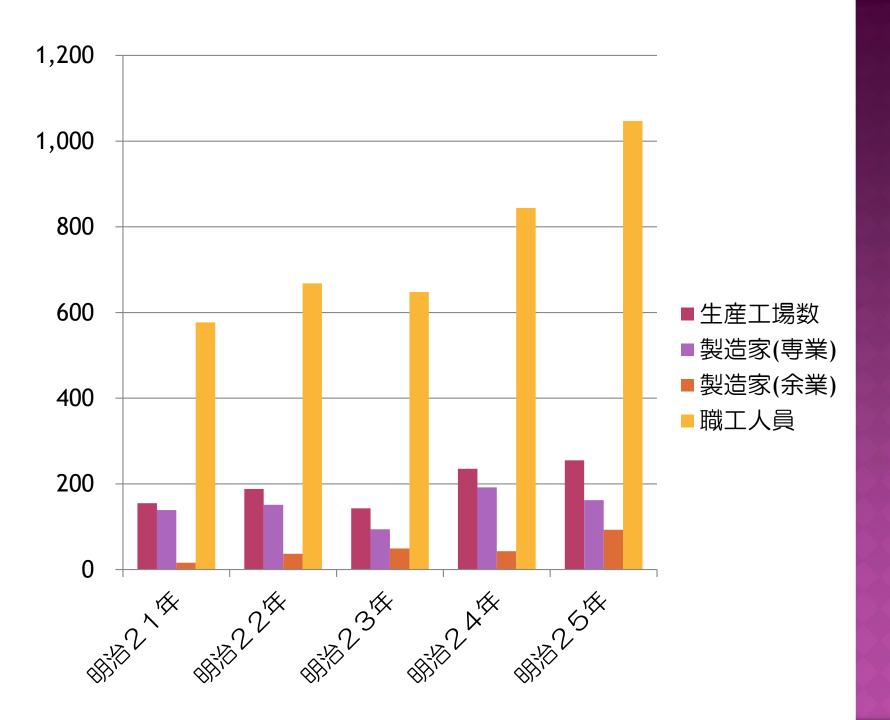


による衣装がドラマでは使用された。大河ドラマ「八重の桜」劇中より,川俣産の羽二重



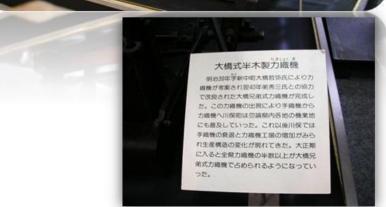






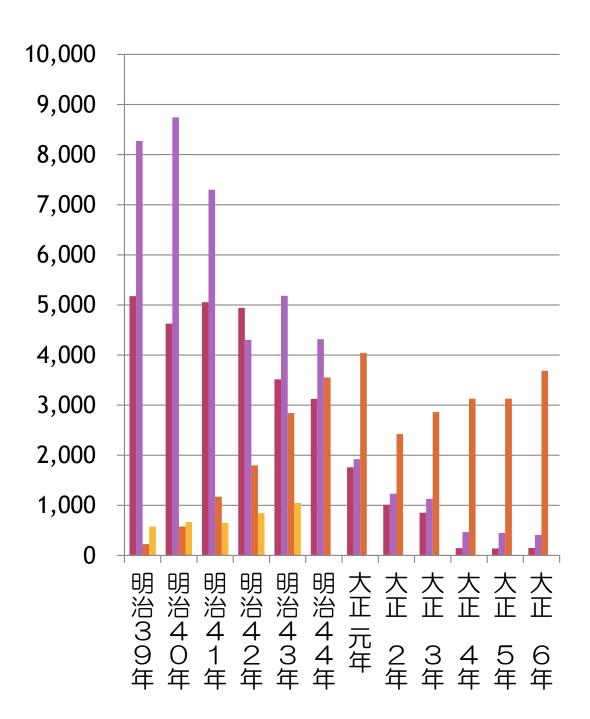






手織機と力織機 (道の駅かわまた:おりもの展示館内)

本田語 氏 提供



- ■機業戸数
- ■織機(手織り)
- ■織機(力織機)
- ■職工人員



協力:川俣おりもの展示館

力織機用のシャトルと木管 下から1・3本目の木管については手織機用。他は力織機用 類より専ら木ぼこ製作に転向した。最近統制による米沢機業界の不振により作者達も木管



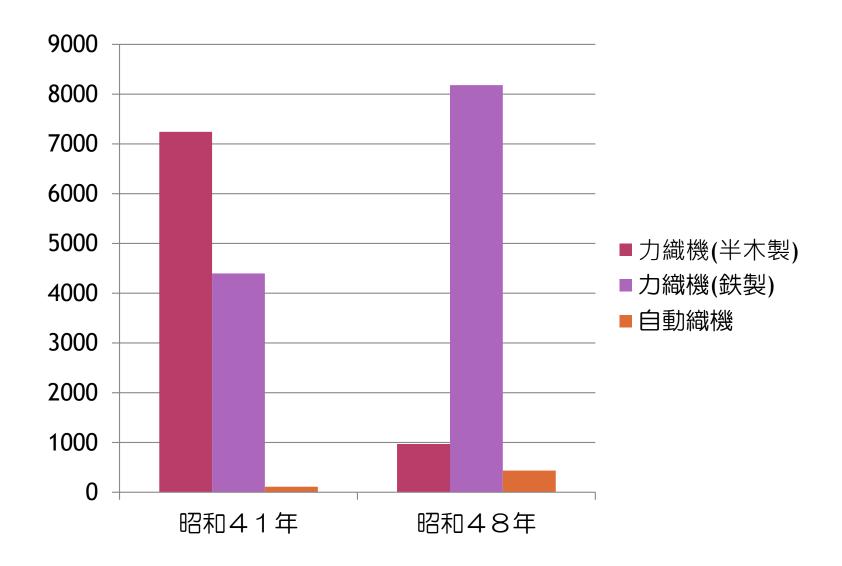
「鴻 第9号」 (昭和16年3月)



米沢市御守町 西須政太郎一家



機業不振により筆をとり、こけし を作り始めた米沢の木地屋



れる機屋さんもあるだで助かっとるのさても笹くれ立つことのねえ俺の木管を喜んでくないども、仕事は正直なもんだ。いくら使こうきょうは大資本が大量生産でやっとるでかなわ いくら使こう

こけし手帖 36号より

が、活気に溢れている。両側の商店もしもた家も小じんまりはしているが、木口は案外がっちりしており、奥行も深い。メインストリートの表情は二十分歩いても変らない。しかも裏町は機織工場を中心とした貧寒なうらぶれ方である。まるで機屋を喰い物にして繁華街が出来上った感がある。町の財閥は機屋。しかし、日に何回となく変動する相場を相手の彼等はがめつい。中学校のテレビ寄贈者も彼等ではなくて他郷に出た特志家だという。この機屋さんの木管を作っているのが、佐外間成吉さんと長男の義雄さんである。

「きょう日は大資本が大量生産でやっとるでかなわなっことのねえ俺の木管を喜んでくれる機屋さんもあるだっことのねえ俺の木管を喜んでくれる機屋さんもあるだっことのおりない。 いくら使うても笹くれ立

虎吉さんは本職の話ばかりに夢中だったが、こけしも を対さらに嬉しい。意識していないから息子に継がせよ うとはしなかった。木地職に見切りをつけて、鉄道に動 めさせようとした。嫌々ながら同じ仕事をさせたのも鉄 がさせようとした。嫌々ながら同じ仕事をさせたのも鉄 がさせようとした。嫌々ながら同じ仕事をさせたのも鉄

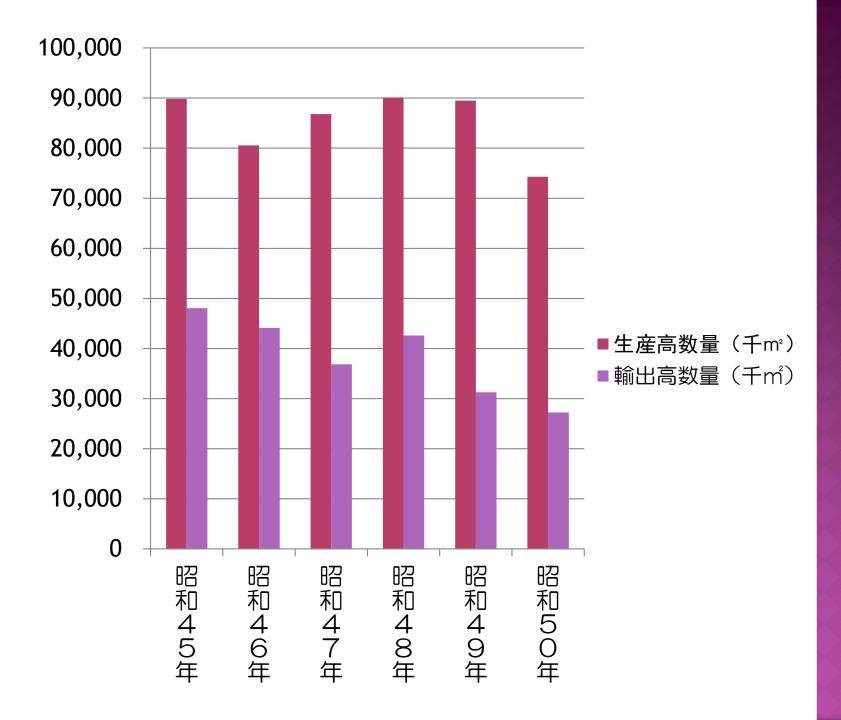


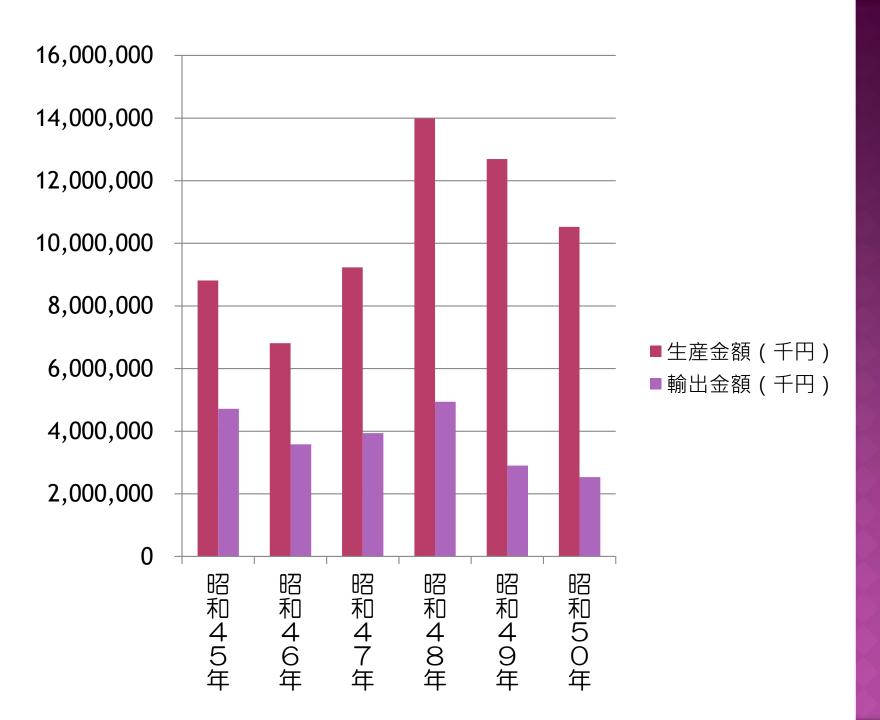
福島の旅(2)

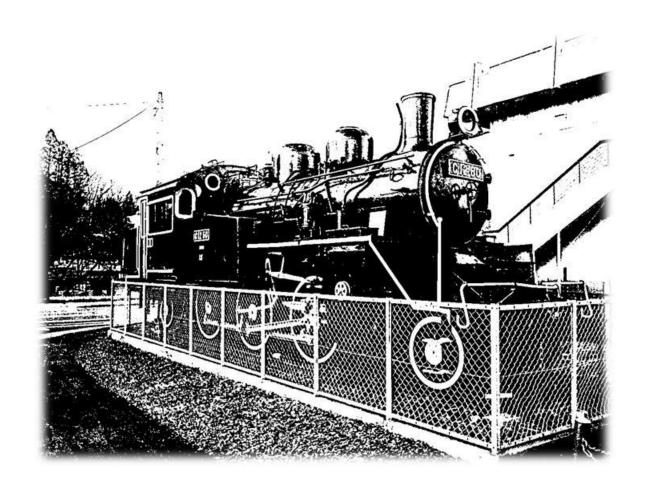
九日の午後から十日の午間市は福島の田市 市にいた。鳴子のこけし祭(八日)の影響で 福島大字の玉山教授にも佐藤寺さんにも会 大なかった。会えたのは佐久間芳雄、小轅敏 夫なかった。会えたのは佐久間芳雄、小轅敏 夫だいた。こけしの話になるとさっぱり 熱 が ない。工場で縛りち近しい。受が死んだ三十七 歳の時、市主報の由古、芳術、芳雄で代展出 品のため年ったのが始めてで、以後続けでや っているといっても、月一回位の別長ので手 っているといっても、月一回位の別長ので手 っているといってもなり、おどのさい。 大郎 おかみさん。一由吉・万浦・芳雄の一 か終行してくれて有難かったが、むつのり星 かかまった。おちゃったのが物足で、 りなかかった。お客の人で話をしているうち りなかかった。お客の人で話をしているうち

いるようである。

太市さん親子に別れると、わたしは決置のた。いわゆる中通りから浜通りへ抜ける阿武隈高原横った。いわゆる中通りから浜通りへ抜ける阿武隈高原横めていると、バスのなかった時代のここに住む人々の孤めていると、バスのなかった時代のここに住む人々の孤めていると、バスのなかった時代のここに住む人々の孤めていると、バスのなかった時代のここに住む人々の孤めていると、バスのなかった時代のここに住む人々の孤めていると、バスのなかった時代のここに住む人々の孤めていると、バスのなかった時間だった。







国鉄 川俣線 廃止 (昭和47年5月)



トヨタ製の自動織機 (エアージェット方式)



と一人と

粂松 虎吉 あやめ 返し



佐 を作 久間 の てる 代目が申 のをみると悲 合わ せたようにこのようなこけ くなる。

崩壞過程の土湯こけし。右より酒井正進6寸9分,阿部廣史9寸2分, 佐久間觸7寸5分,佐藤左志馬6寸2分,佐久間常雄8寸,佐久間芳衡 1尺,小幡福松8寸,7寸2分,佐久間の二代目が申し合せたように このようなこけしを作っているのをみると悲しくなる。 第137 跚



佐久間虎吉(昭和30年前後?)



佐久間太市(昭和27年頃?)



佐久間太市(昭和30年代前半)

















西田記念館 蔵品

止めや

TAICHI







西田記念館 蔵品

息 子 の虎吉 · が 描 る。 たのが多いと 今まで 描 いたも の名で 面描きは粂松 現在は喜平 の弟伝六 は孫 粂松



東京こけ

30

け 手 巾占

一の妙手といえるのでなかろうか。 上手ということが木地挽きの技術を高く買うなら、染松が第

今後のこと

伝六が描いている。私は彼に粂松型を作るよう極力説い **粂松の弟の虎吉によると、今まで太市の名で売られたのとがあるが、自分で描いた確実なものを私は知らない。** 現したことは喜ばしい。新型こけしの経済力の魅力にと は孫の喜平が描いたのが多いというし、現在は喜平の弟 りつかれぬよう、願いたい。何よりも目尻が下ることは 。息子の太市が木地挽きをし、面描きは粂松がしたこ粂松のせっかくの神秘なこけしも、戦後は絶えて久し 細い筆先で堅く描くことはミナ ト屋こけしの自殺行為であることを知らねばならぬ ようやく最近になって、こけし会の努力により事 今まで太市の名で売られたの 屋の持味を殺すこ

> の人遠等に厚く感謝したい。 川俣町役場の当局者達、佐久間家の人達、土湯の斎藤原佐藤泰平、佐久間貞義両氏、福島市役所、同土湯支所、 今般の調査にあたり、お世話になっ 福島こけし会の 土湯の斎藤家

公河北新報 1月21日号 「小原こけし に後継者」と

と文献事

(38歳)の紹介 事を掲載 (菅野

こけしとこけし人形の相違、系統別 日本人形作家協会刊 グラビアコ絵 日本人のコレクションを紹介、あわせて 氏のコレクションを紹介、あわせて

30 믕

とのことである

いう見出し で本田亀寿の

掲載。 (土) なおもちゃ 38号 こけしの歌(土 (橋慶三)こけし雑記(稲垣武雄)を (大) を持ちます。 (1) では、(1) では、(



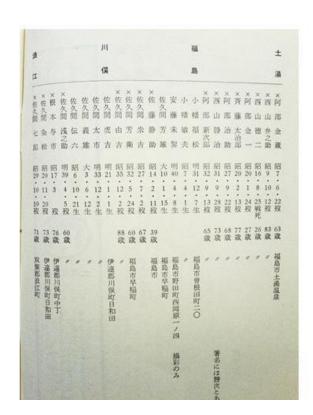
370夜こけし千夜一夜



(木地のみ、描彩は伝六)



こけし手帖43号 (昭和37年9月)



こけし手帖34 号 (昭和36年1月)



こけし手帖30号



業後父に 業後父につき木地修業、もっぱら木管等の
「人物・明治三三年二月二日、福島県信夫郡(人物・明治三三年二月二日、福島県信夫郡・金村・万・万・夏男・幼児のころ福島県相馬郡・北海村・万・町二八で生まる。木地業佐久間・大部町に家族と共に移り、四〇年八歳のと小高町に家族と共に移り、四〇年八歳のといる。(SK)

九・二 (S一次) (Z)、⊜一八・五 (S一五) 野原和紀によって受けつがれている。 野原和紀によって受けつがれている。 太市名儀のこけしが販売されたが、最近は子、勇夫、伝六等の子供を生んだ。戦後一時得決の須田福蔵長女マスエと結婚、清、良鶴沢の須田福蔵長女マスエと結婚、清、良必需品を挽いた。大正一一年伊達郡富田村

こけ

ひ辞典(太市

伝六

の項目

佐久間源六 パペーーされ 明治一六年九月二六日土湯に生まる。木地 業佐久間浅之助・ノエの六男。父について 業佐を潤浅之助・ノエの六男。父について 来佐修業、こけしも挽いたといわれる。体 中でなくなった。一説にはこけしを作らな かったともいう(土湯・四)・描彩をしなか った意味であろう。(SK) 指導が必要である。[伝統] 土湯系湊屋系たためと思われる。この工人には収集家たためと思われる。この工人には収集家時よりこけし描彩に関与せず関心がなか 鯨目の達筆な条松と隔た『品』楷書体で条松型を作 松が伝承されて 松と隔たるこ いな いとい うより、

佐久間作兵衛 ※2: 土湯の古い木地佐久間作兵衛 ※2: 土湯の古い木地 佐久間作兵衛 ※2: 土湯の古い木地 寛政ころの人としかわからない。木地楽は 二代作兵衛からやっており、高森村木地頭 に支配されていて、会津の影響下にあった と思われる。いずれもこけし作者でないと

由吉はこけしは作っていなかったので、こ 由吉はこけしは作っていなかったので、こ 由吉はこけしは作っていなかったので、こ のは、正六年一二月二〇日、母ミノは亡夫常松 の弟来吉と二代継ぎ婚姻をした。そのため 常雄にとっては叔父の米吉が継父となる。 大正七年、常雄一二歳のとき、伯父由吉か ら二ヵ月ほど木地挽きを習う。このころ、 八で生まる。父常松は明治四一年ころ、土湯 松・ミノの二男として、土湯温泉下ノ町二 松・ミノの二男として、土湯温泉下ノ町二 ・ 「た久間常雄*・ 『松』(一九六一))

こけしはよく土湯こけし本来の古風さを伝えて佳品である。この昭和一六年一月から同一七年一〇月までの曾根田町時代に作ったこけしは、約一〇〇〇本と多量である。とはいうまでもない。六寸前後に比較的よいものが多い。昭和二〇年八月から同二二年までの栄町時代には、福島市の植木人形店から注文による新型こけしの木地のみを作った。昭和四七年、こけし製作を再みを作った。昭和四七年、こけし製作を再開。〔伝統〕土湯系漆屋年列。(N)▼(一 (S| (::) (Z)



佐久間伝六** 『☆☆ (「空」―) 佐久間伝六** 『☆☆ (「空」―) 「人物」昭和六年一〇月二一日、福島県伊達那川俣町日和田五に生まる。木地業佐久間太市・マスエの六男。一九年小学校卒業後大市・マスエの六男。一九年小学校卒業後でした。 (たったが、木管等必需品の製作に追われ、また販売等の商業活動に熱心で、こけし製作は念頭にないようである。(作品) 父太市に比べると筆数太く、かなり条松に似ているが、楷書体で硬筆、条松の情格、「一 佐久間常松 佐久間常雄 阿部常松

まない。川俣が機業地でこけ し、製作の自然的風土でなく、工人側にこけ しに対する熱意も夢もない場合、たとえ血 がのに子孫であっても、作るものは新型と 大変なく、伝統の変をかむった一般型であ ない場合、たとえ血 はいまする。川俣が機業地でこけ 土湯系。(SK)▼〔二四・一(S三八)(M)〕やや湊屋系列の作風を示していた。〔伝統〕年こそ 一ねじめ」の依頼で作った条松型は



佐久間虎吉** はいまして、 (「公一」 (大物)明治二四年一月一日、土湯村字下/町の佐久間浅之助・ノエの七男に生まる。男七人女三人兄弟の末っ子。明治三四年一一歳のとき、土湯尋常小学校を学力一等質で卒業。明治三七年より父浅之助・兄七郎について木地を修業した。しかし父浅之助・忠七年に一足代川保へ移り、浅之助・忠古は迫っていた。兄七郎が明治三七年に一足先に岩代川保へ移り、浅之助・忠古は追っていた。兄七郎が明治三七年に一足先に岩代川保へ移り、浅之助・忠古は自治と、明から雪がふる寒い日、折りしも日露戦争の凱旋歌の流れる中を、文庫箱を背負い、浅之助に手を引かれて、故郷土湯を去る「川俣下り」の一節は、多くの文を去る「川俣下り」の一節は、多くの文を去る「川俣下り」の一節は、多くの文を去る「川俣下り」の一節は、多くの文を去る「川俣下り」の一節は、多くの文を表していました。

231

)手帖36号 (昭和36年1月)



福島の旅(2)

木

昶

えなかった。会えたのは佐久間芳雄、小輔敏和島大学の玉山教授にも佐藤泰平さんにも会内にいた。鳴子のこけし祭(八日)の影響で内にいた。鳴子のこけし祭(八日)の影響で

大だけだった。しかし、こけし祭での由古し大だけだった。しかし、こけし祭での由古しいさんの表彰状を見せて上気嫌だった芳雄さんは、こけしの話になるとさっぱり熱がない。工場で鋳物を流し込む直経三・四尺もある木型を専門にしているせいか、小さなこけしには興味が薄いらしい。父が死んだ三十七歳の時、市主催の由吉、芳術、芳雄三代限出品のため作ったのが島口で、以後続けてやっているといっても、月一回位の割なので手とないのが原因かる知れない。仲のよいを定らないのが原因かる知れない。仲のよいっだもないのが原因かる知れない。中のよいっているといって名があったが、むっつり屋の芳雄君がはっきりした口振りで、おじいさんを継承するといってくれなかったのが物足の方はないった。お茶をのんで話をしているうちん、いつの間にか由吉がニコニコしながら、

太市から聞



佐久間虎吉(川俣)の話 単は一時浪江に行き、次に相馬小高に移り、昭和二十九郎は一時浪江に行き、次に相馬小高に移り、昭和二十九郎は一時浪江に行き、次に相馬小高に移り、昭和二十九年十月十九日七十一歳で死亡。浅之助が川俣に来た時は五十九歳が仕事はしなかった。その少し前、土湯では顔五十九歳が仕事はしなかった。その少し前、土湯では顔五十九歳が仕事はしなかった。その人は少し気がおかしいのでは長をほしがるなんて、この人は少し気がおかしいのではないかと思った。天江さんも古いこけしを持って来て、支之助のではないかと尋ねられたこともある。 佐久間太市(川俣)の話 佐久間太市(川俣)の話

— 28 —

ると、終点の駅前より手前の停留所四、五十分で福島市内にバスが入

しいのに不在だった。息子の伝六さんが出てきて、すぐそばから出る十時の福島行バスまでの短かい時間を過ごしたが、あらかじめ知らせておいたのに太市さんの不在は、何かこだわるものを感じさせ、話も途切れがちだった。

りうらめしく、列車ホームからいくいっしょに北上すると思えば、やはの、この雨空が私たちの乗る汽車と半ばあきらめているとはいうもの

しやがんでいる人左より田村・虎吉・阿久津・増田、立つている人左 浅賀・有馬・吉田・加藤・逸見・義雄妻女・河原・川辺・義雄・松本

福島こけしの旅

――秋の旅行会報告―

十分ほどおくれてはを馳けて岩代川俣気を馳けて岩代川俣気

こけし手帖による旅行会記事

太市は人嫌いらしく、36号記事のように人前には出てこない。

ふく まのこけ



ふくしまのこけし

著者略歷

橋元四郎平(はしもと しろうへい)

1923年4月福島県田村郡三春町に生れる 《略 胚》昭和23年東京大学法学部卒業

〈現 在〉 弁護士

東京こけし友の会、日本郷土玩具の会各会員 こけしの会同人、東京民芸協会理事、全国こ けしまつり (鳴子)、全日本こけしコンクー ル (白石) 各審査員

《著書》 こけしの旅 (平凡社)(共著) 三春人形 (東峰出版)(企画・編集)

《自 宅》 東京都杉並区成田西1-11-10 《事務所》 東京都中央区銀座6-8-7交詢ビル211号

ふくしま文庫43 ふくしまのこけし

昭和53年1月10日 初版第1刷発行

元 不 版

印 刷 不

都山市中町7-15 TEL(0249)32-0111

福島県図書教材株式会社 福島市舟場町1-27 TEL(0245)22-3158

落丁・乱丁はお取りかえいたします。

文政七年の鉄山山崩れ、 を作るが 久間太市 は高 を一 趣である。 DU 8 大火と打撃をうけ しは作ら 42 日 年頃 61 代虎吉型の 0 か 太市六男佐 在は ため こけ や 浅乙力型な 湊屋佐久 数多く なが き描 元 彩 戊辰戦争 ども 間 間 は も復興を重 伝 籴 0 ぶ温泉街と な る温泉 あ t 年 け 0 ま 長 は 松 男 ta 治 始

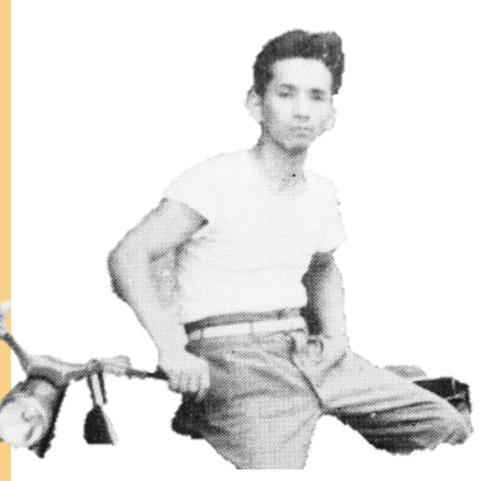
で二五分、

安達にも

東北本線二本松駅からバ

を聞きました。 た。

DENROKU



29歳 (昭和35年夏)

一の妙手といえるのでなかろうか。 米吉…甘味、虎吉…鋭さ、常松…?

い。息子の太市が木地挽きをし、面描きは粂松がしたこ〜 粂松のせっかくの神秘なこけしも、戦後は絶えて久し

し、細い筆先で堅く描くことはメナト屋の持味を殺すこと、細い筆先で堅く描くことはメナト屋こけしの自殺行為であることを知らねばならぬ現したことは喜ばしい、新型こけしの経済力の魅力にと は孫の喜平が描いたのが多いというし、現在は喜平の弟粂松の弟の虎吉によると、今まで太市の名で売られたの 私は彼に条格型 新型こけしの経済力の魅力にと し会の努力により実

今般の調査にあたり、おとだと思ってもらいたい。

の人遠等に厚く感謝したい。 川俣町役場の当局者違、佐久間家の人違、土湯の斎藤家佐藤泰平、佐久間貞義両氏、福島市役所、同土湯支所、

こけしの歌 (土 ☆ **にんぎょう** 1960年新年号 4 頁と本文3 頁を使って、久松保夫 4 頁と本文3 頁を使って、久松保夫 1 のコレクションを紹介、あわせて 5 のコレクションを紹介、あわせて 1 のコレクションを紹介。あわせて 1 のコレクションを紹介。あわせて 1 のコレクションを紹介。あわせて 1 のコレクションを紹介。

の記事 やロップ に後継者」と に後継者」と

掲載。 こけ

の記事

☆河北新報

一氏報) の紹介記事を掲載 し 38 雑 号

こけし手帖30号

貝を

玩分 具は はこ 全け 作っえ たじ 事が以 無外



市等が木 内を出管 の挽来を 土いた専 産て時期 屋土にに に湯注挽 卸・文い し岳にて た・応い 。飯じた 坂てが > 福け時

昭な般で一昭 たがも作友 和っをは般和 無っの 全 43た商な的30 くくた会 年。売くに年にそす、な代 無突こか لح Ē のる機 \mathcal{O} 方? めたよ科 あ た ためう店うか 趣る販 こにとち 作し品だ機 品連文 はく全けが 物絡で

吟居 機機 生 械料 謡活や店 をロは 楽 ク 1 交んも A 処程 7 る 分前 はは た 詩隱

間 湯に行 ったこと にはあ るか

あ走い十行の るりて産っ実湯 、店て家の 隣のたで会 9 ての建。子津 は泉物当供屋 叱屋は時のは らや地の頃祖 れ枡下十は母 た屋で湯よ 粂 思に繋はく い行が旅遊松 出きつ館び妻



火な 後お 1 復虎 旧吉 \bigcirc 手 昭 伝和 **V** 29 に 年 行の 0 た湯

作品について

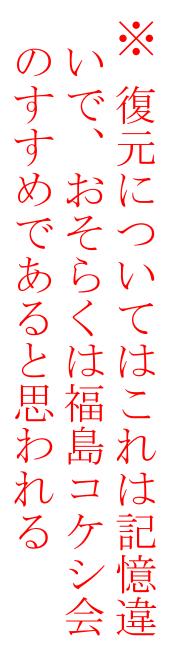
たっモ使踏太 用み市 松 こて レンタ はた」だそ両 よロ つの方 度 うクた後へ な口。5昭 **‡**) 足 無返な自年和 いしの分程21 。模ではは年 様条最モ以 を松初し 前 やがか タ は つ使ら

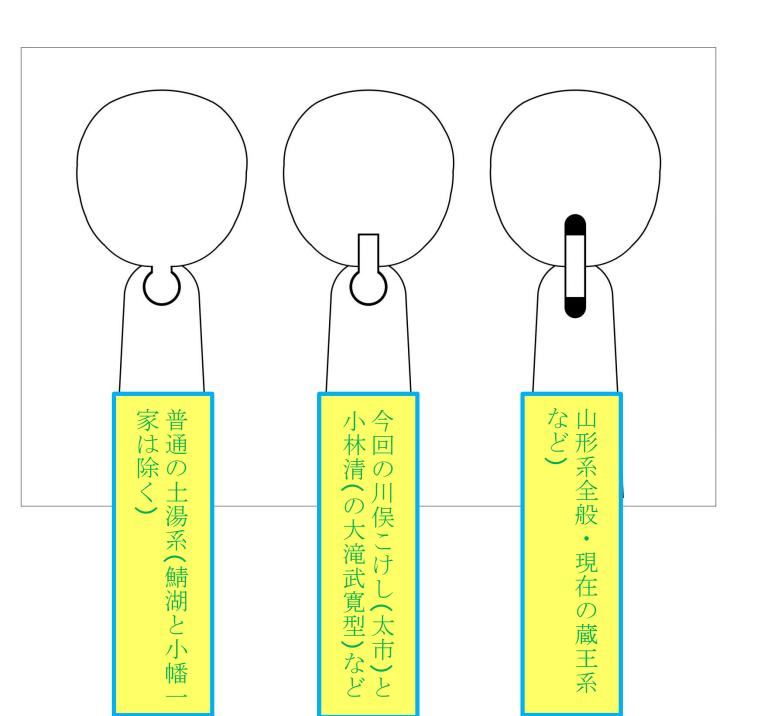
紫 黒の 染 (i) 代料 を 用 使っ たこと は 無

る下ア前かヤ はらメ 根上 \mathcal{O} 本へ葉 が葉は を胴 < 描 0 を **1** いが 復逆 る元に をす

行復っ元 たは 自 分 の思 いつきで

語った が?















「こけし人・風土」 同時期 太市名義の作

条松のかせとは似つかない







伝六名義の作

右こけしの「かせ」

注)太市名義の「かせ」は概ね1種類だが、伝六名義の「かせ」については数種類ある。











国府田氏 蔵品

伝六名義の「かせ」 数種類の比較。

西田記念館 蔵品



こけし辞典(太市項目) 中屋 旧蔵品

誰 の作?

昭和私 27年の作と一緒です。は昔、太市の真作かと思いましたが、 目の筆使い が



のんとう か。しのこ 今はどなたがお持ちでしょうか?ん。底のつくりがどのようなってるとしたら本当に初期かもしれませらのは疑問に思ってますが、ひょっこの辞典掲載品が昭和26年とい

あやめ模様についてですが・・



に酷似してます。そして・・です。アヤメが小さく描かれており、辞典太市名義のです。アヤメが小さく描かれており、辞典太市名義のでこのこけしは以前、kさんより譲り受けた平成10年 作作



辞典太市 (中屋旧蔵品)



な形 つが久 ている。 伝六名義では描かれたことの無い、々に描いたため?それとも忘れたた 太市名義のかかいから 形せ との

補

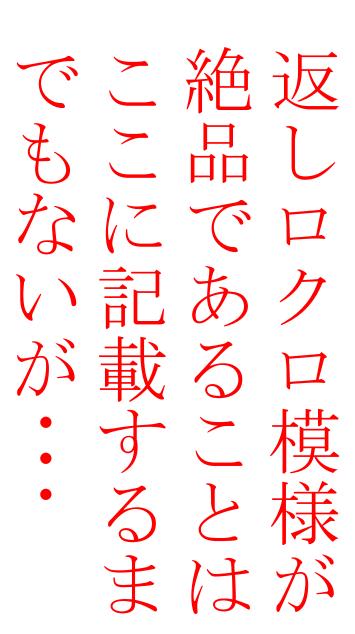
足



条松の 胴模様につい



虎吉の 胴 様につい







ついてこけしの共通点に大市一家のこけしのけしと虎吉







戦 太市名義 20年代後半の虎吉作

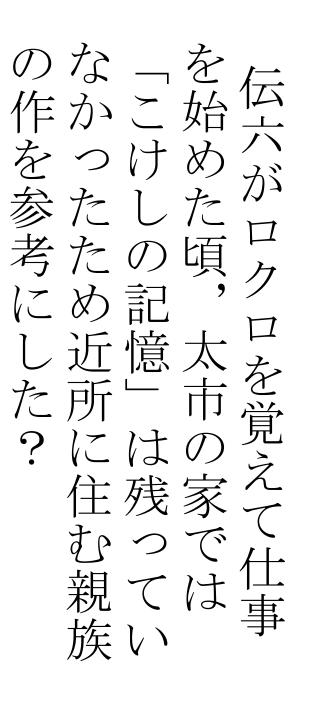
©口は墨の入らない紅のみ。

②横鬢の形。

切れ中だった用(共同購入) ③条松在世時か か?単なる売り ら染料使用の共 か?戦後 かの

紫





いめ模象 て模様松 る様の型。と茎を 同と復 様葉元 にはする 本虎前 が吉の くのあ つあや つやめ



結

論

DENROKU



84歳(平成28年2月14日)

1950年代 家か太 け松 し型 ら市 のを 相一 変復 当家の 遷元 にす 追る

ただ、最近思うこと・・・

ため… 重なっていて、「菊水模様」に描かれる水面に見える 陣野原幸紀さんのあやめ模様には、返しロクロが



純粋なあやめではなく、 カキツバタに見えること。

まとまりませんでしたが、

これにて



続きまして・・・



さい。時間までこちらの映像をお楽しみ下